



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 山本 眞

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第456号 2017年8月27日発行

プール学院中学校・高等学校の聖書の授業は、聖歌から始まります。朝の礼拝で用いられた聖歌だけでなく、クラスの子供に「好きな聖歌は？」と問うかけ、「ホサナ」、「ハレルヤ」、「聞けや」、「十字架のやつ」といったように、思い思いの聖歌をリクエストし、教室いっぱい聖歌を響かせます。

そのひとつに、聖歌423



神はどこにいるのか

—— 葛藤から平和へ ——

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

番があります。生徒たちの中では「沖繩」という愛称で親しまれています。

「島唄」や「海の声」と同じ「琉球音階」と、山野繁子司祭の詞がプールの心にしみわたっていきます。この聖歌423番は、「沖繩」からの叫びを、沖繩という文脈から神に届けようとする祈りです。神の国を求めながら、痛みと苦しみのさなかを

生き抜こうとする十字架の道が、葛藤を生きる中高生の心に強いメッセージを伝えていくような気がします。

いつの時代も、中高生は葛藤の渦の中をまぐるしく生きています。「私たちは何のために生きているのか」、「私たちは何を目指して生きていくのか」。これは、中高生のみならず、人が生きていくうえで考え続けなければならな

ように、主に仕える私たち（信徒・聖職者はじめ、キリストに連なる者たち）は、しばしば葛藤を避け、楽な道や近道を探し、歩もうとします。

また、マタイによる福音書13章の24節以下に記されている「毒麦」の話に登場する僕のように、自分たちにとって妨げになる存在に対して、「では、行って（毒麦を）抜き集めておきましょうか」と排除

することも少なくないのでは？
うか。何が「毒麦」で「麦」なのかの判別もつかないのに……。

「沖繩」の叫び、人々の叫びを、対岸の火事のように傍観、傍聴しているだけでは、私たちの中には何の葛藤も生まれません。神が与えられた被造物の尊さを、いとも簡単に踏みにじろうとする出来事は、この世界に蔓延しています。

2020年に開催予定の東京オリンピックのメインスタジアムとして工事中の国立

競技場の現場監督が、過酷な労働時間によって心身ともに追い詰められ自死を選んだという出来事がありました。こんなことさえも、私たちは対岸の火事として受け止め、「今からオリンピックが楽しみですね」とただ前向きに過ごすのでしょうか。

私たちは、神が創られた世界に生きていながらも、神が私たちを大切にされるように、すべての人を大切にすることがなかなかできません。

しかし、少なくともその中で神の愛に応えるために葛藤し続けていることを自覚しなければなりません。

大小さまざまな食の違いを起し、日々の生活の中で疑問を抱え、神の国を求めながらも外的な言動で人を傷つけてしまう、そんな私たちがきちんと葛藤し、その葛藤こそが平和への礎であることを心に抱き、この夏を過ごしてまいりましょう。

（なるおか ひろあき・大阪城南キリスト教会牧師、プール学院中学校・高等学校チャプレン）

嘉手納基地に掲げられた看板



6月23日(金)から26日(月)にかけて行われた沖縄の旅に参加させて頂きました。沖縄は高校の修学旅行以来でしたので、思い出が風化していた、今回の旅で再び平和のことに ついて振り返りをする機会が与えられました。

この機会に与えられた聖書

沖縄の旅

見せかけの平和ではなく、

真の平和とは？

司祭 クリストファー 奥村 貴充



のみ言葉は、ヨハネによる福音書14章27節で、主イエスが語られた「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。」という教えです。平和というものは政治や軍事によってむりやり実現させるのではなく、むしろ神がもたらすものだというのをこのみ言葉が示しています。

沖縄では思いやり予算の弊害、また基地周辺の様々な問題が人々の心を蝕んでいます。こうしたことは人権の大きな抑圧でもあります。沖縄が今直面している課題を実際に現場に立ってみることによって体験的に学ぶことが出来ました。基地問題をつぶさに直視するとき、これは遠くて次元の違う問題ではなく、大阪にいるわたしたちがどのように連帯していけるかという課題を突

今年の京都教区・大阪教区合同教役者会は、6月19



きつけられていると思いました。

本当の平和は個人の関係から始まっています。わたしたちは聖餐式の中で「平和の挨拶」をします。わたしたちの間に主の平和が満ち溢れることを覚え、見せかけの平和ではなく、神が与える平和と一体何かということはこの機会に問い直していきたい所存です。

(おくむら たかみつ・聖贖主教会牧師、聖ガブリエル教会管理牧師、在日韓国・朝鮮人宣教協働委員長)

2017年 大阪教区 教 区 礼 拝

テーマ「喜びをもって」

2017年 9月24日(日) 午前10時30分
プール学院清心館 (JR 桃谷駅下車徒歩7分)

第1部 聖 餐 式

第2部 喜びカフェ & キッズ広場

お問い合わせ／大阪教区事務所 06-6621-2179

担当：教区礼拝式典チーム
(司祭 成岡 宏晃)



京都教区・大阪教区 合同教役者会 開催報告

京都教区司祭 ヤコブ 岩田光正

日(月)から21日(水)の日程で伊勢市内の伊勢シテイホテルで開催。32人(京都23人、大阪9人)が参加。5月5日の「特別協働教区」関係発足を受け、開会・閉会礼拝は、聖餐式で行い、両教区主教より説教を聴く。セッションで

は、中断中の両教区間の人事交流について意見交換が行われた後、京都教区の常置委員会の申し出で京都事件関連の報告があった。最終日、それぞれの教区や教会のアピール・タイムの時間を持って閉じた。

主教主催 黙想会

祈りの実践方法を学ぶ

司祭 テモテ 内田 望

昨年からはまった主教主催の黙想会が、今年も7月21日（金）～22日（土）、御受難修道会カトリック宝塚黙想の家で行われました。今年の講師は、京都教区のスコット・マーレー司祭にお願いしました。今回の黙想会を通して、祈



前列左から3人目がスコット・マーレー司祭

りの一つの方法『セントリングの祈り』（中心的な祈り）の実践方法を学びました。『セントリングの祈り』とは、黙想の間に雑念が入れば、聖なる言葉を用いて心を神に戻していくという祈りの方法であります。リラックスした姿勢で心を静め、神と過ごし、ゆつくりと神に戻っていく。自分の「聖なる言葉」を探しつつ。第1セッションでは、「いただきます」。第2セッションはギリシャ語の「アフィエーミー」（赦す・送り出す・さらせる・かまわないでおく・なるがままに任せる）。第3セッションでは「委ねる」という「聖なる言葉」を少しずつ時間を増やして黙想の時（15～20分）を過ごしました。

「雨も雪も、ひとたび天から降れば、むなくしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ種蒔く人には種を与え、食べ

る人には糧を与える。」（イザヤ55章10節）。自然界も人間もすべてが「いただきます」で始まっています。そして目的が終われば、神にすべてを「委ね」てお返ししていく。

そのような循環の中に置かれていることを黙想しました。多忙な日々を過ごしている教役者にとって、自分の好きな「聖なる言葉」を見つけ、聖霊に導かれて、『セントリ

在日学習会シリーズを通し

宣教課題を考える

司祭 クリストファー 奥村 貴充

去る6月18日（日）に奈良基督教会の井田泉司祭を講師にお迎えして在日学習会シリーズが大阪城南キリスト教会で行われました。この在日学習会シリーズの目的は、今直



面している在日にまつわる問題を学び、わたしたちの課題を捉え直すというものです。今回の講演のテーマは「日本と韓国の聖公会の歴史を学ぶ」というものでした。

講演では井田司祭が中学生の時にラジオから聞こえてきた朝鮮語に魅せられて関心を持つようになり、大学では朝鮮語を専攻したという話から始まり、日韓の聖公会の歴史的な課題について伺いました。わたしたちが大阪という地にあって日韓の歴史と在日の方々との共生を考えることは宣教の課題でもあります。魂の平安の問題を考えるときに、それは必然的に社会が負う問

題に取り組んでいかなければならないからです。

7月28日（金）には朝鮮学校を無償化の適用対象外としたのは違法だとする判決が、大阪地裁で出されました。それでも依然として在日の方々に対する偏見は残っています。こうした問題を自分の課題とするために、ともに祈り、学んでいく、そして行動に移していくということはこれからの宣教を考える上で不可欠なものだと言えます。

わたしたちにとって今必要な宣教課題は何か、ということの理解を深めるために、在日学習会シリーズが一助になれば幸いです。今後も企画していきますのでどうぞ期待下さい。

（おくむら たかみつ・在日韓国・朝鮮人宣教協働委員長、聖贖主教会牧師、聖ガブリエル教会管理牧師）

2017 GFS 世界大会

豪パースで24カ国 200人が集う

司祭 ジョイ 千松 清美



パース教区主教座聖堂にて開会礼拝

2017年7月11日(火) 21日(金)の日程でGFS世界大会がオーストラリア・パースで行われました。世界の聖公会から24カ国約200人が集まりました。宿泊先と協議会の会場は、スワン・バレー・アドベンチャー・センターというキャンプ場でした。広い敷地内にアスレチック場やキャンプファイヤー場があり、羊や馬が飼われていて、自然豊かな場所でした。歩いていける距離内に小さなお店

もないような田舎町でしたが、ワイナリーが点在し、休憩時間にワインの試飲を楽しむことが出来たのが幾人かの参加者の幸いになりました。

3年に1度行うこの世界大会は、参加国のGFSメンバーが親密な交流を持つことはもちろんですが、10日間毎日3～5時間行われる協議会では、互いの活動報告、協働で進めるプロジェクト報告、これからの3年間の計画を話し合い、それに伴う会計報告と予算が決議されます。

各国シニア代表とユース代表の2人が議決権を持ち、話し合いをしながら賛否を問います。代表者以外の参加者に議決権はないですが意見は言えますので、内容によっては皆の議論が白熱することもあります。日本の参加



1軒のコテージを韓国 GFS とシェア

者は同時通訳者がいない中で、2人の方が重要な部分だけわかる範囲で通訳してくれました。しかし、協議会全体で決めた。しかし、協議会全体で決めた。しかし、協議会全体で決めた。結果だけを後で知るといふ事もありました。その中で、日本GFSは、過去6年間に協働支援を受けて行ってきた東日本大震災被災者支援の活動報告をしました。シニア代表の松村歩美さんが、英語圏の方が聞き取りやすいように、発音や英単語を何度も練習しながら行ったプレゼンテーションは大変良いものでした。協議



次回の2020年世界大会開催国
南アフリカの会長と、
日本の代表者2人

会の参加者全員が納得して、今回の協働支援の重要性を再確認してくださいました。これらの詳細は、『GFS会報』や『管区事務所だより』に記載されますので、ぜひ皆様ご一読ください。

私自身は日本GFSのナショナル・チャプレンとして参加しました。チャプレンとしての任務が何かも理解しないままに参加しましたが、チャプレンとしての役割が当日突然に何度か与えられ、英語での対応に戸惑いながらも、貴重な経験をさせていただきました。帰国してから心がとても軽やかになっていることに気づき、おそらくこれらの経験が、私の霊的な慰めと養いとなったのだと思いま

り出すのですが、英語での表現に多くの方の助けを借りながら、日本からの参加者の霊的な養いがどこにあるのかを私自身が再確認させていただきました。そして私達の心や体がどのような状態であろうとも、良いものを与えようと神様は生きて働かれることを教えられました。

このような機会を与えてくださった日本GFSの皆様、長期の留守を守ってくださいました石橋聖トマス教会と庄内キリスト教会の皆様のお支えに感謝いたします。

(せんまつ きよみ・日本聖公会GFSナショナルチャプレン、石橋聖トマス教会牧師、庄内キリスト教会管理牧師)

シリーズ 聖公会関連施設紹介 ― ⑪

プール学院大学・同短期大学部

「神の栄光のために」歩み続ける

大学チャプレン 松平 功

1879年（明治12年）に
英国人宣教師ミス・オクスラ
ドによって創立された永生学
校は1890年（明治23年）、

A・W・プール主教を記念し
てプール女学校に名称変更し
学院としての歩みを確かなも
のとした。1950年（昭和

25年）にプール学院短期大学
（現、同短期大学部）が、プ
ール学院中学・高等学校のあ
る勝山キャンパス（大阪市）
で開学され、その後、短大は
創立100周年記念事業とし
て1982年（昭和57年）に
現在の泉ヶ丘キャンパス（堺
市）に移転した。そして19
96年（平成8年）に4年制
大学を開学して現在に至って
いる。

当学院では「神の栄光のた
めに」という教育理念を掲げ、
キリスト教主義による教育に
よって人類の福祉に貢献する
ことを目的としている。この
教育理念や教育目的が、大学
のチャペル活動に大きく反映
されていると言っても過言で
はない。例えば、「アセンブ
リ」と呼ばれる大学・短期大
学の全体礼拝は大学行事とし
て年2回も行われている。ま
た、チャペル・タイムは1限
目と2限目の間、約15分と短



私が恵我之

荘聖マタイ教

戦争はあきまへん 小さな平和を積み重ねて

会の牧師をしております時、
信徒の中にY兄がおられまし
た。彼はインパール作戦に従
軍した経験を持つ方でした。
インパール作戦というのは、
第2次世界大戦（太平洋戦争）
中、ビルマの日本軍が、イン
ドからの連合軍の攻撃を封じ
るためインパール（インド東
部の州都）を占領しようとし
て、辛苦をなめる悲惨な戦い
となった作戦のことです。1

944年3月中旬に作戦は開
始されます。軽装備の急進戦
法をとった日本軍は、補給経
路を整えることができていま
せんでした。連合軍は空中補
給で防衛線を固めて反撃、さ
らに日本軍の背後に落下傘部
隊を降下させ、日本軍は挟み
撃ちにされてしまいます。補
給のない日本の兵隊たちに追
い打ちをかけるように、雨季
が到来します。

Y兄は、一度も敵と交戦す
ることなく、ひたすら雨の中、
密林を逃げまどうことになっ
たと静かに語り始められまし
た。寝る時も、体の下を雨水
が流れていくような状況の中
で、食べる物も底をつき、雑
草を食べ、飲み水もなく、雨
水をすするので皆、お腹を
壊して（チフスでしょうか）、
夢遊病者のように、イギリス
軍の捕虜になるまで彷徨った
そうです。小柄なY兄が過酷
な状況の中を、よく生き抜か
れたと感じました。そしてお
話の最後に、思い出の水筒の

コルク栓を見つめながら言
われました。「戦争はあき
まへん」――このY兄の言
葉は、今も心に残っていて、
8月になると思い出します。
人間の歴史の中には、決
して忘れてはならない事実
があります。戦争はその一
つです。私には、既に天に
召されたY兄から、「戦争
はあきまへん。小さな平和
を積み重ねる努力をして下
さいね」との声が聞こえて
きます。

（主教アンデレ磯晴久）



香港ハンドベル・クワイア

いものの毎日開かれて有意義
な時間を学生達に与え、かつ
ミッション系大学特有の清ら
かさを保持し続けている。こ
のチャペル・タイムはオーソ
ドックスな礼拝形式にこだわ
らず、ノンクリスチャンの教
職員による知的な講和も楽し
めるように心がけている。ま
た、先日は香港からハンドベ
ル・クワイアが訪れて演奏会
（次頁4段目につづく）

世界の窓

○少数民族出身の女性
性が英国教会ラフバ
ラーの初代主教に

革命の勃発によつて1980年に家族と共に英国への亡命を強いられたイラン

人女性、ギル・フラン

シス・デカニ博士が、ラフバラー初代主教に着座すると発表された。彼女は14歳の時にノッティンガム大学とブリストル大学に通い、1998年に聖職按手を受けている。彼女の父である故ハッサン・デカニニタフティ主教は、イラン人初の主教として1961年から1990年までイランの主教を務めた人物である。初代ラフバラー主教として彼女は、カンタベリー管区のレイセスター教区にある多くの教会での働きを担いながら、黒人、アジア系、少数民族出身の聖職者および信徒奉仕者や会衆のサポートにも重点を置くことになる。2004年までレイセスター教区の主教であったマイケル・イブグレイブ博士はデカニ一家と親密な関係にあり、彼女の父であるハッサン主教の生前中、十

字架のペンダントを託され、そのペンダントを今回の発表の後、彼女に託したという。イブグレイブ主教は、「長年にわたってギルとは緊密な協力関係にあったので、彼女が靈性と司牧性、そして神学的洞察に優れた賜物を持ち、それらを通して英国教会を豊かにすることがわかる。彼女がその父であるハッサン主教の足跡を引き継ぐことは、とても素晴らしいことである」と絶賛している。なお、ギル・フランシス・デカニ博士の聖別式は、本年の11月30日に予定されている。

(Anglican Communion News Service, July 12th, 2017)

○2人目の女性主教はウェールズに赴任

500人以上の人々がウェールズのランダフ大聖堂に集い、新主教の着座式を歓迎した。第72代ランダフ主教となったジューン・オズボーン主教は、主教としての初めての務めとして説教を取り次ぎ、草の根的な宣教への情熱とビジョンを語った。彼女はラン

ダフ教区初の、そしてウェールズでは2人目の女性主教となる。さて、ジューン・オズボーン主教の宣教戦略は、地方にある教会の影響力を強めて教会そのものを力づけるというものである。彼女は説教の中で「私は地域の中に誠実に、熱心にそして深く根ざす宣教を信じる。私を戦略的指導者と説明する者もいるが、その戦略は主にウェールズにある地方教会の影響力を強めることを通して、公共での神聖な生活と家族や共同体での司牧的生活に繋げていくことである。そして、それはあな

たの隣人に対する思いを研ぎ澄ませるところから始まる」と語った。ジューン・オズボーン新主教は、13年間ソールズベリー大聖堂で首席司祭を務めたが、首席司祭として中世の大聖堂に任命された初めての女性でもあった。1980年から執事補となり、1987年に執事、そして1994年に英国教会司祭として叙階された最初の女性のひとりである。また、王室顧問弁護士のパウル・ゴールディング氏と結婚し、2人の子宝に恵

(前頁よりつづく)

を聞くなど、国際色が豊かなイベントが度々行われている。さらに、礼拝時間以外でのキリスト教センターの活動も活発で、エレノアチャペル、泉チャペル(小チャペル)、集會室、チャプレン室には常時何十人もの学生達で溢れかえっている。特に昼休みは泉チャペルにおいて毎日違った宣教活動が行われてお



中華教会宣教師によるバイブル・レッスン風景

り、様々な手法で学生達にイエス・キリストの愛を伝えていく。その一例として、毎週金曜日には近隣の中華教会の宣教師達が当大学チャペルで、英語でのバイブル・レッスンをを行うなど、学生達はその多様な取り組みに飽きることはない。

なお、2018年度からプール学院大学の運営を桃山学院が引き継ぐことが決定し、桃山学院教育大学という新たな名称で再出発する。新しく出発する桃山学院教育大学に大きな期待を持ち、神のみ旨のままに歩み続けることを心から願っている。

(まつだいら いさお・プール学院大学・同短期大学部チャプレン、守口聖オーガスティン教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、守口ぶどうのいえ施設長)

まれている。

(Anglican Communion News Service, July 24th, 2017)

司祭 ヤコブ 松平 功

(まつだいら いさお、守口聖オーガスティン教会牧師、聖ルシヤ教会管理牧師、プール学院大学チャプレン、守口ぶどうのいえ施設長)

教 区 の 動 き

常置委員会報告

6月14日(定例)
6月21日(臨時)
7月12日(定例)

I. 主教報告

* プール学院大学の運営を桃山学院が引き継ぐことになり、2018年度から桃山学院教育大学と称変更される。

* 東北教区加藤博道主教は6月退任、9月から主教座聖堂付で勤務される。7月1日(土)より植松誠北海道教区主教が管理主教となられた。8月19日(土)に同教区の主教選挙が行われる。

* 9月23日(土・休)、神戸教区オーガスチン小林尚明主教被選者の主教按手式、教区主教就任式・着座式・祝会が開催される。

II. その他諸報告

* 7月3日(月) 神学生後援

会理事会開催。教区神学生が2人となり、助成金・奨学金が増大することにより、神学生養成資金が減少する。各教会信徒による神学生後援会を通じてのさらなるサポートが望まれる。

* 7月19(水)～20日(木) 浄土宗宗務庁で開催される「同宗連」主催の部落解放基礎講座に金山執事が参加。

* 財務委員会による2018年度一般会計予算案を7月24日(月)開催の会計委員懇談会で提示。

III. 協議事項

* 大阪教区の組織改編を踏まえ、「関係規則集」の改正文案を準備、法制委員会で検討を加える。また、3月に行っている決算承認のための臨時教区会を定期教区会とすることを確認。規則集の条文を「年1回以上」と変更する。これらを教区会に議案提出する。

* 教区礼拝は9月24日(日)開催。前日のリハーサルは17

時から19時まで。役割分担を明文化し、責任の所在をはっきりさせて運営内容の共有を図る。

* 神学生の夏季実習は、ヒューム・ユーン・聖職候補生は大阪聖ヨハネ教会で、山本直樹神学生は堺聖テモテ教会で、それぞれ7月16日(日)から8月下旬までとする。

* 東豊中聖ミカエル教会・聖ミカエル保育園における牧会活動について協議。

* 守口聖オーガスティン教会からの特別宣教資金援助依頼について協議。

* 台湾聖公会との交流「協働宣教キャンプ」に関して協議。

* 教区・教会関連の夏季キャンプに関して、安全管理に充分配慮をしてもらうことを要請する。

祝 受 洗



○ 庄内キリスト教会
ミリアム

よしだ 吉田
ゆうか 友香
(7月9日)

連合男子会 修 養 会

2017年 10月20日(金) 午後7:00～8:30
「植松誠首座主教と語り合う会」

会 場：大阪聖愛教会
参加費：無料

2017年 10月21日(土) 午前10:00～12:00
講演会「わたしたちは信仰をどう伝えるか」

講演者：植松 誠 首座主教
会 場：川口基督教会
参加費：1,000円(昼食不要の方は無料です)

参加申込先：
各教会連合男子会代議員 または
川口基督教会内 名出 正 (FAX 06-6581-4433)

大阪教区婦人会

秋 の 修 養 会

松岡虔一司祭の被爆体験をもとに
～共に聴き、共に歌おう～

日 時：2017年 10月18日(水) 午後1時
会 場：西宮聖ペテロ教会

オルガン演奏：伊藤純子さん
(神戸国際大学オルガニスト)

※松岡司祭は7月より入院療養中です。
一日も早い回復をお祈り致します。

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 9月13日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：テモテ 内田 望司祭

4日 執 事 ラザロ 布施 好古 (1938)

6日 主 教 ヨハネ 名出 保太郎 (1945)

9日 司 祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946 英)

11日 司 祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941 英)

12日 主 教 ヘンリー・エヴァントン (1912 英)

14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson (1963 英)

23日 主 教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)

司 祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000 米)

25日 司 祭 田中 正之助 (1927)

27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977 英)

◇ 10月11日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：ヤコブ 松平 功司祭

2日 司 祭 ジョージ・チャプマン (1940 英)

5日 司 祭 サムエル 福田光宏 (2013)

9日 主 教 ヨハネ 山田 襄 (1993)

12日 司 祭 マルコ 岡 精三 (1997)

16日 主 教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)

主 教 サムエル・ヘーズレット (1947 英)

18日 司 祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)

20日 司 祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949 英)

23日 司 祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)

24日 司 祭 深田 直太郎 (1945)

司 祭 ペテロ 横田 久明 (1995)

25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971 英)

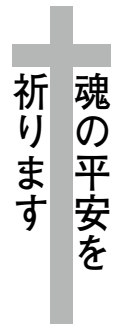
29日 司 祭 セオドア・ステファンズ・ティング (1927 米)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の
有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

祝初陪餐



祝受按

魂の平安を
祈ります

○西宮聖ペテロ教会
トマス 青柳 正志
(6月16日・85歳)

○西宮聖ペテロ教会
ペテロ 当舎那津希
(1月8日)

ルカ 大宮 幸慈
(おみやや よしちか)

ペテロ 北野 脩
(きたの おさむ)

○尼崎聖ステパノ教会
ジョイ 鈴木 愛乃
(すずき あいの)

アブラハム 加藤 光平
(かとう みわへい)

ヨハンナ 加藤 光和子
(かとう みわこ)

○庄内キリスト教会
ミリアム 吉田 友香
(よしだ ゆうか)

テレジア 吉田 未空
(よしだ みく)

○聖ルシヤ教会
モーセ 門田 一郎
(もんぜん いちろう)

○石橋聖トマス教会
エステル 名生 貴子
(なまきょう たかこ)

ルデヤ 高田 茂登子
(たかだ もとこ)

○大阪聖三一教会
ルデヤ 高田 茂登子
(たかだ もとこ)

○東豊中聖ミカエル教会
緒方美代子
(おがた みよこ)

テレサ (3月13日・96歳)
芝田 幸子
(しばた さちこ)

○大坂聖三一教会
ルデヤ 高田 茂登子
(たかだ もとこ)

○川口基督教会
セシリア 原田 光江
(はらだ みつえ)

○聖ルカ教会
サムエル 大久保佳彦
(おおくぼ よしひこ)

○川口基督教会
セシリア 原田 光江
(はらだ みつえ)

○川口基督教会
セシリア 原田 光江
(はらだ みつえ)

釜ヶ崎 フィールドワーク・講演会

日 時：10月21日 (土) 15時～

講演会講師：吉岡 基さん (釜ヶ崎キリスト教協友会長)

会 場：釜ヶ崎ディアコニアセンター
喜望の家 (福音ルーテル) 2階集会室

フィールドワーク：16時半～ 喜望の家出発

お問合せ／司祭 古澤 秀利 (大阪聖愛教会牧師)
電話 06-6771-4123 (大阪聖愛教会)

お詫びと訂正

教区報第455号の掲載記
事に以下の誤りがありました。
訂正してお詫びいたします。

3頁…4段目4行
(誤) チャアプレン

(正) チャアプレン

12頁…3段目 (写真説明)

(誤) 両司祭

(正) 両主祭

16頁…3段目 (祝初陪餐)

川口基督教会 ミリアム

古武静江さんのふりがな(ルビ)

(誤) こたけ しずえ

(正) ふるたけ しずえ